

黒色なしと、蠡海集に見えたれど、蠡豆の花は黑白分明に見ゆあり、群芳譜に、黑梅、花黑如墨、或云、以苦棟樹接者とあり、古今集に、

年ふれば齡は老ぬしかはあれど花をし見れば物おもひもなし、是は詩に、窈窕淑女君子好逑とあるが如き、染殿后の風情を、かたはらに照してのたまふなり、花とのみいひて櫻の事とするは、後の事也。鶴林玉露に、洛陽人謂牡丹爲花、成都人謂海棠爲花、尊貴之也と見ゆ、鎌倉右大臣集に、みよしの、山に入けん山人となり見てしがな花にあくやと、古今集、菅家万葉なども、櫻とよめるは勿論にて、花とのみよめるは百花をいへり、よて詩も其意に見えたり、農家に花といふは紅花也。

〔隨意錄五〕華花二字、兩漢以上唯有華而無花、凡草木皆用華字、魏晉以下、物華、年華、繁華、京華之類、唯用華字、凡草木皆用花字、而獨運用華字何也。

〔過庭紀談二〕五經四書諸子楚辭先秦西漢以上ノ書ニ花ト云字一字モ無シ、唯後漢書ノ李譖ガ傳ノ述身賦ニ、樹先春而動色、草迎歲而發花トアリテ、末ニ肆雕章之腹旨咀文藝之英華ト云ヘリ、是レ花ノ字ノ見エ始メニテ、其上一賦ノ内ニ花ト華ト並ビニ韻ニ用ユル出所ナリ、故ニ後世ノ詩人モ、一首ノ詩ノ内ニ、花ト華トヲ並ビ用ヒ來レリ、

〔大和本草〕論物理○中

凡群花多クハ五出也、六出四出、二出ハ稀ニアリ、五出ノ花ノ六出ニサキタルハ、其實ノ核ニ雙仁アリ、紫陽花連翹花ナドハ四出ニサク、此外ニモ四出ノ花アリ、梔子威靈仙、鹿蕙射干等ノ花ハ皆六出ニサク、虎耳草ノ花ハ二出ナリ、諸果蓏ハ花ノ後ニミノル、ミノリテ後ニ花サク者ハ、只瓜壺盧瓜蔓ノ類也、蓮ハ花ト實ト同時、男麻ハ有花テ實ナシ、女麻ハ實有テ無花、此類亦多シ、木ニモ無花果アリ、棣棠、山礬、水仙等ハ、花サキテ實ナシ、此類亦多シ、山椒、櫑ナド、雄木ニハ花アリ無實、菠稜